

西光寺だより 第一八四号 令和七年十一月一日発行

◆先月の報告◆

①十一月二三日（日・祝）西光寺本堂にて報恩講法要を厳修致しました。寒く冷たい風を感じながら親鸞聖人のご遺徳を偲ぶ法要を行いました。

昼座十四時からのお勤めは、近隣ご住職五人の方にお参りに来ていただき、親鸞聖人の淨土真宗に出遇えた喜びの中、色とりどりの衣に袖を通してお勤めいたしました。

そしてお昼だけのご法話に、秋季永代経のご縁いただきました高島

先生に再び来ていただき、ご法話を聴聞いたしました。

夜座のお勤めの時に、報恩講法要に引き続き、西光寺前住職の十七回忌法要をお勤めするということもあり、ご法話は、そのこともふまえてのお話をしていただきました。

ご法事とは亡き方のいのちが自分のいのちを形づくり、その方の思いい出を通して今の自分のいのちを見つめ直すこと、そして阿弥陀さまが、いつでもまかせよと、必ずあなたのいのちを抱きとつてくださるはたらきに出遇うことであると話されました。

そしてこの報恩講。

親鸞聖人のご法事といただきながら、出遇うことのなかつた私たちに、阿弥陀さまとのご縁をつくつて下さった親鸞聖人に感謝する法要。皆さんと一緒にお称えした正信偈の冒頭、

「帰命無量壽如來 南無不可思議光」

（かぎりない「いのち」の如来に帰依し、かぎりない「ひかり」の如来に南無じたてまつります）

いつでも、どこでも、誰にでも、優しく語りかけて下さっている阿弥

陀さまにお任せします、との意味を皆さんでお聞きし、そして

【五劫思惟之摄入 重誓名声聞十方】

（長い間思索し、南無阿弥陀仏の名が、すべての世界に聞こえさせようと誓われた）

仏の名前である南無阿弥陀仏の名が私たちに届き、もう阿弥陀さまがご一緒ですよと、聞かせていただきました。

親鸞聖人が私たちに、もう阿弥陀さまがそばにおられ、もう安心の中にあることを、この報恩講のご法話を通して聴聞させていただいたことがあります。

そして十九時からの夜座では近隣ご住職五人の方にお参りに来ていただき、報恩講法要、引き続いての西光寺前住職の十七回忌法要をお勤めいたし、お焼香をしました。

皆さんの声高らかのお勤めを聞きながら、

「前住職の十七回忌にこれだけのご縁のある人が集まり、こうしてお勤めをしているこの声、聞こえていますか？」

ここにおられる皆さんやご縁のある皆さんに支えられながら「ここまでやつてきました。

どうぞこのご縁を大切にいただきながら、また遇う日まで。」

との思いをご報告させていただきました。

そしてこれからも皆さんと一緒に、阿弥陀さまの教えを伝えていきたいと改めて思う時間でありました。

行き届かないことばかりかと思いますが、少しずつ進んで行きたい

と思います。本当にありがとうございました。

そしてこの一年間本当にありがとうございました。皆さんのおかげ

さまでこうして過ごすことが出来ました。



来年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



◆十二・一月の行事◆

- ・一月一日(木)　元旦会　十時～
- ・十二月三一日(水)　除夜の鐘　十一時五〇分

西光寺鐘楼

②十一月二六日(水)茨木東組仏教婦人会研修会として佛願寺さまで蓮の花のインテリアを作成されました。西光寺仏教婦人会からはお一人が参加され、こんな鮮やかな色とりどりの蓮の花が咲きました。自然の蓮の花の見頃は朝ですが、この蓮の花はいつでも大輪で綺麗な姿を見せてくれます。ご参加ありがとうございました。



西光寺本堂